

USCARへの要請を含めた事件への対処内容がわかる琉球政府立法院会議録

No.56 立法院会議録第8回議会

報H28/P19 [第三清徳丸の人的、物的損害に対する賠償方について 1955/11/1琉立調第1098号]

1957年(昭和32年)2月6日

1955. 11. 1 琉立調第 1,098号	第三清徳丸の人的、物的損害に対する賠償方について	佐敷村馬天区4班 当真正傭 外3名	<p>第三清徳丸及び第一第一清徳丸事件のことについては民政府に対し善処方を1955年6月8日付文書で依頼してある。なお第4項の行方不明者の家族に対する応急的な生活援護については当政府において調査中である旨1955年6月9日付文書で関係者あて回答済。なお本件に関し民政府から1955年6月16日付答書で次のような回答があった。</p> <p>この事件に関するすべての資料をまとめて民政長官あてに送付するとともに適当な外交機関を通じて本件を取り上げその責任を明らかにし行方不明の漁師の行方を追求し、第三清徳丸の乗組員及び行方不明者の家族のこうむった損害について正な適る補償を要求し犯人を罰し今後かかる事件が再びおこらないよう保証せしめるよう要請した。</p> <p>この問題は当政府の権限の及ばない事件で国際問題をして外交機関を通じなければならないので総ての証拠を民政府の保安部に提供し、米国の外交機関を通じての解決を要請するため1956年6月6日その後の捜査の経過及び事件の見透しについて照会した文書に対しては1956年1月4日副長官から要旨次のような回答があった。</p>
----------------------------	--------------------------	-------------------------	--

所蔵: 沖縄県議会図書室

資料概要

第三清徳丸事件の一報の後、生存者が沖縄本島に帰還しようやく事件の全貌が明らかとなった。被害状況は、乗組員9名の内3名が行方不明というものであった。生存者らの供述によると、2名が射殺されたのを目撃したとのことだが、その後の捜索で遺体は発見されなかった。被害者遺族らは、琉球政府立法院議会に対し、蒙った損害について救済を求める請願をした。

内容見本

[第8回議会1956年8月29日]

1955.11.1琉立調第1,098号

第三清徳丸の人的、物的損害に関する賠償方について

佐敷村馬天区4班当真正傭(ママ)外3名

処理概況 第三清徳丸及び第一第一清徳丸事件のことについては民政府に対し善処方を1955年6月8日付文書で依頼してある。(略)本件に関し民政府から1955年6月16日付答書で次のような回答があった。

この事件に関するすべての資料をまとめて民政長官あてに送付するとともに適当な外交機関を通じて本件を取り上げその責任を明らかにし行方不明の漁師の行方を追及し、第三清徳丸の乗組員及び行方不明者の家族のこうむった損害について正な適る保証を要求し犯人を罰し今後かかる事件が再びおこらないよう保証せしめるよう要請した。

(略)

作成年月日	1957年(昭和32年)2月6日
編著者	行政主席官房文書課
発行者	行政主席官房文書課
収録誌	公報号外 1957年2月6日
言語	日本語
媒体種別	紙
公開有無	有
所蔵機関	沖縄県議会図書室
利用方法	沖縄県議会図書室で閲覧を行う